

# 会津東山温泉 向瀧

Aidu Higashiyama Onsen Mukaitaki  
(福島県会津若松市)



10日間の東北旅行の始まりである。初日は自宅である東京から福島へ向かった。まずは「塔のへつり」という奇岩を眺め、大内宿の三澤屋で有名な「高遠(たかとう)蕎麦」という辛いネギが乗った蕎麦を食し、会津若松市内の鶴ヶ城を見学し、末廣酒造という日本酒製造会社の嘉永蔵を見学して日本酒を買い、会津東山温泉へやってきた。

今回取材するのは向瀧(むかいたき)という名の、極めて古い温泉宿である。建物は登録有形文化財で、最も古い建屋は明治時代の築造であり、最も新しい建屋でも築85年の古さである。

玄関に車で乗り付けるなり、従業員が車から荷物を降ろして客室まで運び込み、車は駐車場まで運んでくれ、フロントでのチェックイン手続きもなく、スムーズに客室に直行できた。客室は一番奥で一番上の階の風呂付の客室。玄関から50m以上は歩いたし、階段は全部で80段はあったらしい。階段は急で、エレベーターはないので、身障者やお年寄りにはかなりきついであろう。迷子になりそうな迷路のような宿だ。

客室で抹茶と羊羹を食べながらチェックイン手続きを済ませ、さっそく浴室へ。向瀧には全部で3種類の浴室がある。



まずは大浴場「さるの湯」へ。大浴場はオーソドックスな風呂だ。脱衣室には脱いだものを入れる籠が12個あるが、ロッカーはない。貴重品は客室の金庫へ入れてくる方が良いであろう。アメニティーは髭剃り、櫛、ドライヤーなどがある。客室にはバスタオルとハンドタオルが具備されているが、すべての浴室にバスタオルが具備されているので、どちらを使用してもよい。

浴室には洗い場が5か所あり、他には定員8人程度の浴槽があるのみだ。サウナ、水風呂、露天風呂はない。洗い場にはオリーブの葉のエキスを使用したシャンプー、コンディショナー、ボディークリームと、酒粕を使用した固形石鹸がある。固形石鹸は美肌、保温、保湿、血行促進の効果があるようで、まるで温泉の効能のようである。面倒くさがり屋で欲張りな私は、体を洗う際、ボディークリームと固形石鹸をブレンドして使用。浴槽の湯は適温であった。



次に向かったのは湯治場風の「きつね湯」。こちらには洗い場はないが、シャンプー等の石鹸類は具備。つまり、浴槽から湯をすくって体を洗うことは許されている。浴槽への湯の注ぎ口は湯の花がこてこてになって付着。これを手で剥がしてみようとしたが、固くて全く変形すらしない。まるでサンゴのように見える。湯温はやや熱めで、最初は抵抗があるが、慣れてくると体が温まる。



最後に向かったのは貸切家族風呂。貸切家族風呂は3つあり、それぞれ「鶯」「瓢」「鈴」との名称がついている。予約の必要はなく、空いていれば中から鍵をかけて使用できる。「きつね湯」と同様に洗い場はなく、石鹸類は具備。浴槽は定員1名分であり、脱衣室の大きさや籠の数から考えると、いずれの浴室も定員は2~3名である。湯温は「きつね湯」と同様にやや熱めで、浴槽への湯の注ぎ口が湯の花でこてこてになっているのもやはり「きつね湯」と同様である。

ちなみに、向瀧の湯は硫酸塩・塩化物温泉で、筋肉もしくは関節の慢性的な痛みまたはこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、抹消循環障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息または肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進などに効くという。

入浴後は客室で夕食。様々な郷土料理が供されていたが、特筆すべきは鯉料理。鯉なんておいしいわけがないという固定観念を持っていた。しかし、清流にて泥を吐かせた巨大な鯉を、ぶつ切りにして6時間煮込んで作った甘煮は絶品。ご飯が進むし、酒の肴にも最適だ。



就寝前には客室にある浴室へ。小さな浴室であるが、しっかり温泉を楽しめる。その後 20:30 頃には中庭に面した通路で蛍観賞。たくさんの蛍がいるわけではなかったが、生まれて初めて蛍を見た。

温泉、鯉料理、清流、蛍。いずれも大昔から存在していたものばかりだ。この宿は古いが、これからもこの古い伝統的な姿のまま存在してほしい。

DATA

名称	会津東山温泉 向瀧
所在地	福島県会津若松市東山町大字湯本字川向 200
電話	0242-27-7501
営業時間	15:00~9:30
定休日	無休
入浴料	宿泊者は無料
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2020年某月某日
取材	銭湯愛好会東京支部
最寄りのスキー場	アルツ磐梯